

議会報告会（令和4年度・下半期 事業）

開催日： 令和4年11月7日（月）、18日（金）、20日（日）

参加者： 延べ65名（市民37名、議員28名）

実施方法： 対面方式（一部 Zoom参加者あり）

内容：

第1部 各日共通「令和3年度の可児市の決算」（予算決算委員会）

第2部 テーマについての意見交換

①「可児市の魅力発信について」（総務企画委員会）

②「外国籍の人の“まなぶ・はたらく”を考えよう」（建設市民委員会）

③「保護者から見た学校・教育の課題」（教育福祉委員会）

対面でもオンラインでも！議員と話そう！

議会報告会

参加者募集

ZOOMでも参加できます☆

テーマ① 可児市の魅力発信について
日時/11月7日(月) 15時～ (担当:総務企画委員会)

テーマ② 外国籍の人の“まなぶ・はたらく”を考えよう
日時/11月20日(日) 10時30分～ (担当:建設市民委員会)

テーマ③ 保護者から見た学校・教育の課題
日時/11月18日(金) 19時～ (担当:教育福祉委員会)

テーマ①～③ 共通 場所 市役所5階 議会フロア
内容 【前半】令和3年度の可児市の決算～予算決算委員会からの報告～
【後半】テーマについての意見交換
※全体で概ね90分を予定しています。

参加ご希望の方は
可児市議会事務局へ電話、またはEメールで申し込んでください。申込締切後に事務局から当日の詳細をご連絡いたします。
※ZOOMでの参加をご希望の方はEメールで申し込んでください。その際「議会報告会ZOOM希望、お名前、連絡先、参加希望のテーマ(①～③)」をご記入ください。

◎申込締切 各テーマの開催日の3日前
【問合・申込先】 可児市議会事務局
電話 0574-62-1111 Eメール gikai-jimu@city.kani.lg.jp

第1部 「令和3年度の可児市の決算」 (予算決算委員会)



(11/18 : 教育福祉委員会)



(11/7 : 総務企画委員会)

第2部 テーマについての意見交換

①「可児市の魅力発信について」

(総務企画委員会)

議会報告会実施報告書

開催日時	令和4年11月7日 午後3時～4時30分	開催会場	5階第1委員会室
参加者数	市民12名(うちZoom参加1名) 議員8名 (計20名)		
実施内容	可児市の魅力発信について		
質疑および 主な意見等	<p><1グループ></p> <p>進行：山田 喜弘 総務企画委員会 委員長 記録：亀谷 光 " 委員</p> <p>(主な意見と回答など)</p> <p>意見1：可児市は住みやすいまちである。特に外国籍の方は、コンビニで母国へ送金がしやすい。</p> <p>意見2：あいさつ運動が行き届きお年寄りや、子どもにやさしく声をかけている姿をよく目にし、優しい人が多いのではないかと。</p> <p>意見3：発達障がい者にとってもいいまちである。</p> <p>回答：市内小中学生の頃からあいさつ運動が盛んで、学校、地域、コミュニティにおいて何度も繰り返し、繰り返し行われた結果ではないでしょうか。</p> <p>意見4：#可児市40について 外から見た可児市について、特産品オリジナル品が少なすぎないか。アカウントをあげる為なら、専門家を活用して映像を作った方が効果的である。#可児市40の目的は何か？どう広めていくか？また「可児の誇りと自慢」のターゲットは対象を外に発信するのか、市民の中に広げるのか。</p> <p>回答：10年後の可児に残したいこと、10万人市民のお気に入りスポットをSNSで発信する。又、写真コンテストでも活用している。可児の誇りと自慢(32の自然、文化、遺産、人)を小中学生に配布し郷土愛を醸成しています。</p> <p>意見5：可児市のばら教室の企画、運営は日本中に誇れるものではないでしょうか。全てを発信して欲しい反面、アール映像制作システムを活かして映画を作るべきだ。バラんまるをつくっても最近活用しきれてないのでは。</p> <p>回答：外国籍の方々が年々増加をし、市のあらゆる面での発展に貢献されていることは、非常に有難いこととあります。住み心地い</p>		

ちばんを目標に「可児市の魅力発信」をどう続けていくかを研究してまいります。

<2グループ>

進行：大平 伸二 総務企画委員会 副委員長

記録：澤野 伸 " 委員

(主な意見と回答など)

意見6：可児川下流にある鬼ヶ島にて毎年大晦日に「おんでこ祭」を開催しているが、河川改修で島に渡りづらくなった。駐車場もなく案内看板もないため、鬼ヶ島の存在も知られていない。可児市の財産である鬼ヶ島を盛り上げるため行政も力を入れてほしい。

回答：東海自然歩道も含め、鬼ヶ島の現状を確認し、活用について議会としても考慮していきたい。

意見7：可児市は住みやすく、近隣市町村と比べると交通の便も比較的良い。働く場所が多いのも重要だと思う。(回答なし)

意見8：可児市の魅力発信について、たとえば可児市の魅力を「戦国の歴史」「ゴルフ場の多さ」「住みやすさ」「バラ」とするならば、それぞれの項目に興味を持っている人に、その情報をしっかり届けるかが重要である。情報のマッチングを強化しないといけない。可児市の魅力として、全体を発信してもあまり効果は望めないのでは。

意見9：情報の受け手が受動的ではなく能動的になるような仕掛けがあると良い。情報発信についてはしっかりマーケティングをして行うことが大切であり、官民の協力も必要ではないか。たとえば、イベントを打つにしてもこのイベントの目的に対し、どういった参加者を望むのかも考慮に入れてイベントを組むのも良いと思う。たとえば「可児市の住みやすさ、不動産情報・相談が出来る、可児市の環境をPRするイベント」を打つとすると「家を建てたいと思っている30代」に向けて、このイベント情報を受け取って貰うことが大切であり、その年代にしっかりアピールし、イベントに参加してもらうことで、定住に繋がれば、このイベントの効果はあったということになるので、イベントのポイントターゲットをしっかりと定め、そこに情報を発信するというのも実施してみてもは。同じように「歴史好き、お城好き」に向けたイベントにしても興味のある人にしっかり情報を届けること、情報を拾ってもらえるような仕掛けが大切である。インフルエンサーの協力も面白いのでは。

	<p>意見 10：情報を発信する上で、その目的は「観光」なのか「定住」なのかによってベクトルが全然違うと思う。誰に伝えたいのかを考えるべき。</p> <p>回 答：情報発信する上でマーケティングの重要性を認識しました。効果を最大限望むのであれば、しっかりしたマーケティングに税金を使うことも必要であると考えます。官民連携を強化し、「可児市の魅力発信」情報発信のツールを広げていくことが肝要である。</p> <p>意見 11：可児駅西側、総合会館分室跡地を含め、賑わいにつながる開発が必要ではないか。東側にはマーノも出来たので、駅前にもう少し賑わいがあっても良いのではないかと。桑名駅は以前閑散としていたが、今かなり賑わいを取り戻している、参考にしてみてもいいのでは。</p> <p>回 答：市道の拡幅もあり、総合庁舎別館跡地利用も含め可児駅西側の発展に期待したい。現在跡地利用については未定である。可児駅西側に民間の開発も呼び込めるようになれば有り難い。</p>
--	---

令和 4 年 11 月 30 日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

総務企画委員会 委員長 山田 喜弘



②「外国籍の人の“まなぶ・はたらく”を考えよう」

(建設市民委員会)

議会報告会実施報告書

開催日時	令和4年11月20日 午前10時30分～12時	開催会場	4階第1会議室
参加者数	市民16名(うちZoom参加2名) 議員10名 (計26名)		
実施内容	外国籍の人の“まなぶ・はたらく”を考えよう		
質疑および 主な意見等	<p><Aグループ></p> <p>進行：山根 一男 建設市民委員会 委員長 記録：川上 文浩 “ 委員</p> <p>(主な意見など)</p> <p>◆「まなぶ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学から進学するときの選択肢が少ない(東濃高校以外)。幅広い進学先が欲しい。情報を含めて。就職先に関しても同様。 ・ 国際教室の有無など学校によって差がある。 ・ 高校進学に失敗すると経済面から再挑戦は難しい。 ・ 高校では言語、生活面でのサポートが弱い。高校のサポートを強化するために県への要望が必要。 ・ 外国籍市民への広域なサポートが必要だが、県の補助金が減少している。 ・ 学校や地域によってサポートの差がある。 ・ きぼう教室(市国際交流協会が実施する補習教室。公立学校に通う外国籍児童生徒が対象)では市外在住者への対応が難しい。 ・ 手に職をつけたいが、工業、商業、農業などの技術系高校への進学が難しい。 ・ 偏差値に左右されるが日本語の壁がある。担任の先生任せになっている。 ・ 夜間中学の設置が必要。 ・ 母語教育の必要性を国、県へ要望する。 ・ 日本で生活するために必要なことを学ぶ必要がある。 ・ 自身の能力に気付かずにいる場合が多い。 <p>◆「はたらく」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 可児市は働く環境は良い。派遣会社の対応も良い(競争の原理)。 ・ 派遣か直接雇用かは日本語取得状況に影響される。 ・ 自身の通勤手段がないため、送迎がないと通勤できない→結果派遣となる。 ・ 語学教育の充実(母語、日本語、英語等) ・ 企業情報を取得する際は、SNSは個人の主観であつたり誤誤などによ 		

り間違った情報が含まれることもあるということを理解して利用した方が良い。

<Bグループ>

進行：松尾 和樹 建設市民委員会 副委員長

記録：酒井 正司 " 委員

(主な意見など)

- ・外国籍の人が日本に入国し、滞在3カ月間は医療保障が無い。環境が変わり心身ともに負荷が多く、病気になりがちな時期に、この制度は極めて大きな問題。
- ・病気になった時、通常の日本語能力では対処できない。通訳や翻訳機で病名や薬はある程度特定できるが、子どもの病気や微妙な病状の時は大きな不安がある。医療通訳者の居る相談窓口が欲しい。
- ・外国籍の人はルーツにより一律ではない。日系の人とそれ以外の人では、価値観や文化を理解するスピードや理解度が大きく異なるが、日本人は同一視しがちである。
- ・母子手帳が活用されていないことがある。日本が世界に誇る母子手帳文化であるが、字句の翻訳だけでは本来の目的や利点等を理解している外国籍の人は少なく“モットイナイ”。当たり前の制度と思っている日本人とは異なる対応を。
- ・就職活動への理解と協力が必要。就職活動にはマーケティングとマッチングが必要。知識、知恵を高校などで教えることが大切。就活者、企業双方が日本の社会構造や慣習等を意識し、受け入れてもらう、受け入れる体制づくりが必要。
- ・外国籍の人が就けない職業がある。医者や警察官には国籍の壁がありなれない。多文化共生、国際化が必然の日本においては不思議で残念。

<Cグループ>

進行：中村 悟 建設市民委員会 委員

記録：高木 将延 " 委員

(主な意見など)

- ・外国籍の方にはゴミ出しなどのルール、マナーを守ってほしい。
- ・可児市には多くの外国籍の方がいるので、他の国の文化も学びたい。
- ・音楽等を通じて、文化交流が出来たらうれしい。
- ・事業を始めるにあたり、どこに相談したらよいか分からなかった。
- ・学校からの連絡が理解できず、地域の人や知り合いに聞いた。
- ・日本語が分からないと学校でコミュニケーションがとれず、子どもが学校生活に不安を感じている。
- ・フレビアで日本語を学んでから、学校に入った。
- ・義務教育の間は授業を受けているだけだったので、進学の際、成績の

重要性に気づかされた。

- ・外国籍の児童生徒にとって理解が難しいと思われる授業は別の教室でまったく別の授業を受けたが、テストは同じものを受けた。当然成績が低くなる。学年によって進む授業だけでなく、理解度により下の学年の学習もできるとよい。
- ・日本語学校で日本語を学んだ。生活に直結する事柄は覚えが早い。
- ・日本と外国との習慣の違いも考えてほしい。(スクールバス等)
- ・学校によってサポート体制が違う。しっかりできている学校もあるが、心配な学校もある。
- ・一時期、外国籍生徒が多く、国際教室に入れなかった子がいた。
- ・親のサポートが大事。親が進学への意欲がある家庭は上達も早い。
- ・親が忙しい家庭の子へどう語学教育をしていくのか。
(タブレット等を上手く利用できないか)
- ・学年が上がるにつれ、授業についていけなくなる子が多い。
- ・進学できない子、就職できない子が増えると地域が荒れる。
- ・親が日本語を理解できない家庭がある。知り合いにサポートしてもらわないといけない。
- ・医療機関では、子どもが翻訳しているケースもある。
- ・コロナの影響もあり、外国籍の方が地域から切り離されつつある。
- ・市の広報が読める人は良いが、読めない人は情報がとれない。
- ・もっと SNS、Facebook を活用して、多言語で情報発信してほしい。
- ・広報を画像ではなくテキスト版で配信すれば、自動翻訳できるのでは。
- ・国際交流員等の人材育成が急務。
- ・可児で育った子たちに、経験を活かし日本語教育のサポートに入ってもらいたい。
- ・進学、進級することにモチベーションを持てる教育にする必要がある。
- ・外国籍の子が多く通う東濃高校との連携をしてみてもは。

(成果と課題)

今回、多くの外国籍の方にも参加いただき、各グループにおいて外国籍の人の就学・就労における課題等について、自身の経験からの多様な意見、生の声を率直に伺うことができた。一言に外国籍といっても各地域やその人のルーツによっても様々な困りごとがあり、まだ拾い上げられていない課題などがある可能性も考慮し、建設市民委員会として今後も積極的に意見聴取に取り組んでいきたい。

令和4年11月30日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

建設市民委員会 委員長 山根 一男

Aグループ



Bグループ



Cグループ



③「保護者から見た学校・教育の課題」

(教育福祉委員会)

議会報告会実施報告書

開催日時	令和4年11月18日 午後7時～8時30分	開催会場	5階第1委員会室
参加者数	市民9名 議員10名 (計19名)		
実施内容	保護者から見た学校・教育の課題		
質疑および 主な意見等	<p>進行：川合 敏己 教育福祉委員会 委員長 記録：渡辺 仁美 " 副委員長</p> <p>(主な意見など)</p> <p>◆ PTA 活動の現状、問題点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に PTA 不要論や会員離れなどの問題がある。他の市民活動にも通じるが、なぜこの活動をやる必要があるのか、やるとどんな効果があるのか、皆で考える必要がある。現在の組織のあり方や規約の変更も必要な時期にきているのかもしれない。 ・PTA 会員が、PTA 役員に選任されることへの忌避、つまり、会員の中には役員をやりたくないという考えの方が多い。それは役員がどんな活動をしているのか知らない、知られていないという要因も考えられるため、市 PTA 連合会のホームページを作って各学校間の情報共有、活動を紹介などできればいいと考えているが、市 P 連には予算がないという問題がある。 ・一方、ある PTA 活動の際に、全保護者に呼びかけ参加できる人を募って行ったところ、自ずと手が挙がり分担されたとの例もあり、皆さん PTA 活動だから嫌というわけではなく何をするのか具体的に分かれば自主的に参加してくださる方も多い。 ・実際に PTA 役員をやってみて、すごくやりがいを感じたし、楽しい内容や役員特典的なこともあるのに、楽しいと伝える場所がない。皆さんが役員を敬遠するのは、どんな活動をしているのか知らないことと、嫌な所というイメージがあるのでは。自分としてはもったいないと思う。 ・PTA は学校の運営に緊張感を持たせるためにも必要だと思う。子どものためによりよい学校運営を目指すという同じ目的のために両輪でバランスをとっている。 ・コミュニティスクールに関する情報は全く知らされていない。 <p>◆不登校に関することについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が子が学校に行きづらくなり、不登校になったのはある日突然で、「まさか自分の子が」と最初は思った。担任からは適応指導教室など 		

の案内はなく、半年間は居場所がなかった。今は奥村さんが運営する不登校の親子が集える場所に通っており、居場所を見つけられて気持ち的にも落ち着いた。

- ・不登校の悩みを持つ方や体験をした親子のための居場所づくりをしている。中高生のボランティアも協力してくれて、地区センターの図書館などを利用しているが、減免団体としては扱ってもらえない。空き家などの利活用なども含めてもっと行政に協力してもらえればと思う。それは子どもから高齢者まで色々な世代が集える場づくりにつながる。
- ・不登校は教育委員会だけで解決できる問題ではない。学校だけではできないことを市民と学校と行政で協力することが必要。

◆発達障がいなどに関すること

- ・子どもが自閉症、軽度スペクトラム、アスペルガー症候群等を発症していても、周りからはそれに気づかれないまま、トラブルの要因となることがあり悩んだ時期があった。そのころにこのような話し合える場が欲しかった。さらに、同じ経験をした人が集って話し合える場があったら救いになると思う。
- ・成人の発達障がい者のための活動を10年続けているが、発達障がいの認知度は低い。

(成果と課題)

教育福祉委員は全員傾聴に努め、参加者の方々の意見を自由な形で述べていただくことに徹し、多くの意見が聞かれたのは良い点であると同時に、参加者相互の気づきにもなり得たと思う。

3つの課題が本日のテーマとなったわけであるが、他にも課題はあること、そして何より参加者の皆さんも言い尽くせていないことなどを鑑み、教育福祉委員会として今後も意見聴取に取り組んでいきたい。

令和4年11月28日

可児市議会議長 様

可児市議会報告会開催要領の規定により提出します。

教育福祉委員会 委員長 川合 敏己

